

四国大学 第一回富士正晴全国高校生文学賞

過去十回にわたって三好市が主催し、富士正晴顕彰事業の一環として開催してきた「文芸誌甲子園」が二〇一九年をもって役割を終えた。二〇二〇年度からは四国大学がこの活動を引き継ぐ形で、新たに「四国大学 富士正晴全国高校生文学賞」を立ち上げた。

徳島文学協会は「文芸誌甲子園」時代より協賛団体として事業に協力し、募集や選考のノウハウを持っていくことから、四国大学に主催が変更した今回からも、引き続き協賛団体として運営に協力することとなった。

今年も、九月一日から全国約三〇〇校の高校に募集をかけ、一〇月一日の締め切りまでに一九校から文芸部誌が寄せられた。その中に掲載されていた小説一九三作品が選考対象となり、厳正な審査を経て一〇作品が最終選考に残った。

四国大学文学部長阿部曜子氏、日本文学科教授の友重幸四郎氏、佐々木義登氏の三人による最終選考が行われ、大賞は筑紫学園高校の吉原幸歩さん「ほうじょうや」に決定した。作品は大学受験を控えた主人公が、気分転換に祖母とお祭りに行く

という話で、特にドラマティックな展開はないが、受験に直面する高校生の不安や、家族との微妙な距離、疎遠になりつつあった祖母との関係の再構築など、様々に移ろう主人公の心の襞を丁寧に掘り上げていると評価された。

なお優秀賞には盛岡第三高校の三浦麻名さん「しあわせの見つけ方」、白陵高校の志摩光咲さん「終わらない夏」、筑紫学園高校の松原采実さん「岡惚れ蝉時雨」の三作品が輝いた。

大賞受賞作は今春刊行予定の『徳

島文学』第四号に受賞のことばとともに全文掲載される。

また最終選考に残った一〇人には四国大学芸術分野特別入試A区分の受験資格が与えられ、四国大学に入学した場合、毎年八〇万円の奨学金（返済義務無し）が四年間給付される。

二〇二〇年度はコロナ禍ということもあり、文芸部の様々な取り組みも制約が多かったことと思う。来年度からは一層多くの高校生からの応募に期待したい。



第二回「民雄忌 北條民雄を偲ぶ会」

昨年の一二月五日、北條民雄の命日に合わせて、第二回「民雄忌 北條民雄を偲ぶ会」が徳島市内で開催された。第一回は阿南市と徳島文学協会の共催で行われたが、今回は文学協会単独での開催となった。

一月に『いのちの初夜』がKADOKAWAより五〇年ぶりに復刊されたこともあり、コロナ禍の今、改めて北條民雄の文学が注目を集めることとなった。北條民雄の評伝『火花』の作者でもある高山文彦さん、芥川賞作家の吉村萬吉さん、そしてKADOKAWAの編集者で『いのちの初夜』復刊を企画した山本涉さんがZOOMにて登壇した。

山本さんは現在二六歳で入社二年目だという。今回の『いのちの初夜』復刊にかけた山本さんの思いを、高山文彦さんは「若さゆえの無謀な企画だ」と冗談交じりに称賛した。

また会の後半では、吉村萬吉さんが推薦した「吹雪の産声」〔短編集『いのちの初夜』収録〕を、徳島文学協会会員でもある



なかむらさんの朗読に聞き入る皆さんの様子

フリーアナウンサーのなかむらあゆみさんに朗読していただいた。後半最もドラマティックな院内での出産場面が情緒豊かに読まれ、聴衆の皆さんも思わず作品世界に引き込まれた。

第二回「民雄忌」の様子は地元徳島新聞や朝日新聞地方版でも後日取り上げられ、その意義の大きさを評価された。徳島文学協会は今後も北條民雄顕彰活動の一環として、「民雄忌」を継続してゆく予定である。第三回はコロナ禍の去った状態で、多くの参加者を募って開催できることを願っている。

徳島新聞阿波しらさぎ文学賞

作品募集

◆募集対象

日本語で書かれた広義の小説作品
※インターネットも含め未発表作品に限る。
※徳島ゆかりの地域や文化、歴史、産業、人物などを作中に登場させること。

◆募集資格

広く全国から募集
※年齢・性別・職業・国籍は問わない

◆原稿枚数

四百字詰の原稿用紙に十五枚以内

◆原稿書式

縦書きを原則とする
※パソコン・ワープロ原稿の場合は四百字詰原稿用紙での換算枚数を明記すること。
※表紙にタイトル・住所（徳島出身で県外在住の方はその旨記載）・氏名（ペンネームの場合は本名も）・年齢（生年月日）・職業・電話番号（あれば携帯電話も）を書き、作品にはページ番号をつけて右肩をホッチキスで綴じること。
※応募は一人一編。

◆募集締切

二〇二二年六月十日
当日消印有効
※応募作品の変更、訂正、差し替え、返却などは不可

◆応募先の宛先

【郵送】
〒七七〇-八五七二
徳島新聞社事業部
阿波しらさぎ文学賞係

【メール】

awashirasagibungakusho@topics.or.jp
※原稿はテキスト形式、またはワードデータ(docx)を添付

◆賞金

阿波しらさぎ文学賞
三十万円
徳島新聞賞 十万円
徳島文学協会賞 三万円
※徳島新聞賞は徳島出身又は徳島在住から、徳島文学協会賞は二十五歳以下の応募者から選ばれる。

◆最終選考委員

芥川賞作家 吉村萬吉氏
芥川賞作家 小山田浩子氏

◆発表

二〇二二年八月
※受賞作は徳島新聞紙上および徳島新聞電子版に掲載

◆詳細はホームページで

<https://www.t-bungaku.com/shirasagi/index.html>



カクヲタノシム vol.3

二〇二二年冬、発行予定

《みんなの原稿》

大募集

掲載原稿を募集しています。ジャンル不問。詳しくはメールまたは電話で協会事務局までお問い合わせ下さい。掲載参加料、原稿フォーマットなどを明記した応募要項をお送りします。

応募締切

■小説作品 二〇二二年七月末日
■他の作品 二〇二二年九月末日

※第三号はご応募いただいた方と会員の皆様全員に無料進呈

創刊号と第二号を販売しています。税込六六〇円＋送料。数に限りがありますのでお早めにお問い合わせください。



カクヲタノシム創刊号と第二号

徳島文学協会と私

如月 玲

小三の時の縊死体との遭遇、中二の梅雨時の親友の落石事故死が、私の文学の原点と考えている。第一の転機は、高校二年生の時にレスリング部を退部して無為のうちに過していた折に倫理教諭と邂逅し、短歌を指導された事。苦手な科目は他の同級生の邪魔をするよりも、図書室での自主学習を勧めて頂く。お蔭様で、瀬戸内艶先生（寂聴先生の姉様）、保科千代次先生（寂聴先生の恩師）との繋がりができ、発展をして、瀬戸内寂聴先生の「寂聴塾」で学び、プロレタリア作家の井上光晴先生と邂逅し、「阿波文学伝習所」に通うが、本格的な文学伝習に挫折をする。「寂聴塾」、「阿波文学伝習所」は、第二、第三の転機だったと思う。挫折はしたものの、真摯に人生に取り組み覚悟みたいなものが芽生えた。

十数年の空白があり、四国大学教授山下博之先生の御紹介で「徳島ペンクラブ」に入会、その後、四国大学教授の佐々木義登先生が主宰する「徳島文学協会」に入会。「徳島ペンクラブ」では若僧、「徳島文学協会」では長老というか、時代遅れの老齢者を事務局の支えで、青息吐息で継続している。還暦まで十年程で吏員生活も終わりの時期に、上司との軋轢でうつ病となり、

人間不信、手探りで日々を過している。現在の心境は、臨終の際には無葬儀でもよいと考えている。そのかわり、「カクヲタノシム」には生きた証として係わってゆきたいと取り組んでいる。まさか書けると思ってた小説が、「徳島文学協会」に入会した事で書くことができる喜びと、出口の見えない隘路のような文学の道に暗澹としているのだが、隣人、知友に「カクヲタノシム」を読んで頂き喜んでる姿をみるのが至福の時です。後、何年ほど書けるかどうかは天命ですが、後裔に大事にしてもらえ作品を残したいと思っています。この度、通信句会に参加させて頂きました。俳句は短いだけに難しいものがありますが、母港をえた気持ちです。

作品投稿を通じて学び、

感じたこと

島 裕幸

二〇一九年に徳島文学協会へ入会させて頂いたとき、初めての投稿です。このきっかけは、「カクヲタノシム」と「通信句会」に私自身が参加させていたことにおける感想等を書いてほしいという依頼を受けたことです。「カクヲタノシム」、「通信句会」の参加を通じて、いろんな考え、価値観を持ち、自分にはないものを有した方々がおら

れることを改めて感じました。特に、小説を書かれる方に対して敬服し、書かれた内容の発想や構想力、根気強さ等が伝わってくる様子でした。また、通信句会においては他の方々から様々な評価、意見、批評等をいただき、学びとなったと共に今後の参考として活用させて頂きたいと思えます。

私自身、若い時分から本を読んだり、文章を書いたりすることが好きで、二十代の頃は作家になりたかったこともあり、読み詩、歌詩等を自分なりに書いてきましたが、三十代に入ってから徐々に詩等から遠のき、俳句の方に関心がいき、今に至っています。

俳句を始めて約十五年になりますがつくづく書けば書くほど奥深く、いろいろな気づきや学び、また足りなさも見えてきます。だからこそ、やりがいがあり、続いているのかもしれない。この俳句を一生通じてのライフワークとして究め、今後も作品投稿を通して、皆様との交流を深め、徳島文学協会の発展に少しでも貢献したいと存ずる次第です。

歩歩是道場

うっかり

正座をする時は左足の親指に右足の親指を乗せるようにと教わったことがあります。何かあればすぐさま動ける

ようにするためで、身体は座っていても気持ちは座っていないといけないとも言われました。俳句も似たようなところがあると思っっています。目の前に来た句材を逃さない様にするにはある種、心構えのようなものが必要です。例えば今、空がとてもきれいです。早朝の湖のような一月の快晴。俳句という心構えなく見たらこの空はただの晴れとしか認識しなかったかもしれない。このように何か気持ちが動いたことを無視せず、できることならなんとか俳句になつてもらおう。そして句会に出してみなさんの意見を頂く。俳句にすることで何気ない日常を共有できる句会という楽しい学びの場があるので。この度、徳島文学協会でも通信句会が始まりました。まずは気軽にみなさんの日常を俳句にして楽しみませんか。

「とと」掲載エッセイを募集します

文学に関することなどを題材にした八百字以内の原稿を、ワード形式で事務局へお送りください。（送信時には件名に『とと掲載用』と入れてください）

「とと」は春、夏、秋の年三回発行ですが、一回につき掲載できるエッセイは二〜四作品です。先着順で掲載できない場合は次号に回します。

「とと」：古代エジプト文明の知恵の神「トート」に由来する。

文学イベント案内

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、
全てのイベントを Zoom によるオンライン開催を予定しています。
今後の状況により、日程及び開催形態が変更する場合がありますので、
詳細はホームページをご確認ください。

ブラッシュアップ小説講座

既に小説作品を複数書かれている方が更なるステップアップをするための小説実作講座です。レベルとしては地方文学賞で入賞以上を目指す中級程度の内容となります。参加者の作品を俎上に載せて参加者全員で批評会を行います。またプロの作品を取り上げ勉強会の場とします。

- 開催日 ①4月24日(土) ②5月22日(土)
③6月26日(土) ④7月24日(土)
全回 21時～22時
- 開催方法 『Zoom』による開催
- 参加費 会員のみ対象
作品を提出される方 3,000円
参加のみ 無料
- 講師 作家・四国大学教授 佐々木義登
- 定員 15人程度
- 締切 開催日の10日前まで ※先着順

※作品提出方法

Microsoft Wordソフトで書かれた小説(400字詰め原稿用紙換算30枚から80枚程度)を事務局宛てにメール添付でお送りください。

Zoom参加できない方も、合評の様子を録画でご覧頂けます。事務局までお問い合わせください。

通信句会

メール及びハガキにて投句を受け付ける通信句会を、季節ごとに開催します。初心者の方ぜひご参加を！

- 開催月 4月・7月・10月
- 参加費 会員のみ対象 無料
- 講師 俳人・うっかり

※参加方法他

- ①投句3句受付《15日締切》
当季雑詠(その季節の俳句)を事務局にメールまたはハガキで投句ください。(一人3句まで・未発表作品に限る・ネット掲載も不可)
「通信句会参加希望」●会員番号●お名前●投句 を記載ください。
後日事務局より投句をとりまとめ、投句一覧を参加会員へ送付いたします。
- ②選句3句・選評受付《25日締切》
投句一覧から3句を選び、選評を書いて事務局にメールまたはハガキでお送りください。
「通信句会選句」●会員番号●お名前●選句●選評 を記載ください。
後日事務局より、参加会員の選句と選評、講師の句評をまとめた句会報を参加会員へ送付いたします。
- ③みんなの文芸誌『カクヲタノシム』誌面掲載《2022年冬》
参加会員の俳句を掲載予定です。

小説エキスパート講座

全国公募の文学賞で最終選考程度の実力のある方やプロの作家を目指している方。また、作品を提出した上で講師からの指名があった方を中心に、本格的なスパリングを行います。

- 開催日 ①5月8日(土) 21時～22時
②7月10日(土) 21時～22時
- 開催方法 『Zoom』による開催
- 参加費 会員のみ対象
作品を提出される方 3,000円
参加のみ 無料
- 講師 作家・四国大学教授 佐々木義登
- 定員 10人程度
- 締切 開催日の10日前まで ※先着順

※作品提出方法

Microsoft Wordソフトで書かれた小説(400字詰め原稿用紙換算50枚から200枚程度)を事務局宛てにメール添付でお送りください。

徳島文学第4号 発刊記念親睦会 (予定)

2021年春に「徳島文学 第4号」が発刊されることを記念して、親睦会の開催を予定しています。詳細は決まり次第ホームページでご案内いたします。

- 開催日 5月29日(土)
- 開催方法 『Zoom』による開催

Zoomでの参加方法がわからない方に、無料サポートしています。お気軽にお問い合わせください。

詳細は徳島文学協会ホームページ
イベント情報をご覧ください

[https://www.t-bungaku.com/
event.html](https://www.t-bungaku.com/event.html)



ご入会や講座のお申込み・お問合せは徳島文学協会事務局まで

〒771-3201 徳島県名西郡神山町阿野字方子 103

TEL : 080-6284-0296 society@t-bungaku.com <https://www.t-bungaku.com/>